リングリング
プロジェクトを
訪ねて⑨

記録と記憶の宝庫、脚本・台本を後生に残していく試み

日本放送作家協会「日本脚本アーカイブズ」

ラジオとテレビは、私たちに日々多くの情報と娯楽を与えてくれる、身近なメディアの一つ。ニュースやドラマ、バラエティ等々。番組にはさまざまなジャンルがあるが、これらの制作に必要不可欠なのが、番組の骨格とも言える脚本・台本である。

今年で創立50周年を迎えた社団法人　日本放送作家協会は、テレビやラジオ等の放送メディアで活動する放送作家らが集う文化団体。現在、そのなかの一組織「日本脚本アーカイブズ特別委員会」で進められているのが、テレビやラジオの脚本・台本を「文化遺産」「文化資源」として後生に伝えていくための、研究・調査である。

社団法人　日本放送作家協会の理事兼日本脚本アーカイブズ特別委員会　収集保存部　部長の熊谷知津さんはこう話す。

日本脚本アーカイブズ準備室の棚には寄贈された脚本・台本がびっしり。足立区の図書館の閉架書庫にも、数多くの脚本・台本が保管されている

「NHKアーカイブスなどのように、映像や音声資料と共に比較的新しい脚本・台本を収蔵しているところもありますが、放送初期はVTRがなく、撮影したものをそのまま流していましたし、録画ができるようになってからも、テープが高価だったため、重ね撮りをして使っていたほど。つくって放送したら終わりという感覚で、保存の意識もありませんでした」

しかし、番組にはその時代時代の世相や文化などが色濃く反映されており、日本の歴史をひもとく「史料」としての存在価値がある。そこで「せめてこのままでは散逸してしまう脚本・台本だけでも残そう。脚本・台本は文化資源として一級の資料なんだと、市川森一理事長が衆議院の総務委員会で証言したことが設立の契機となりました」と熊谷理事。そして、2005年10月、文化庁の支援や東京都足立区の協力を得て、日本脚本アーカイブズ準備室が設立された。

これまで、放送作家や俳優、ディレクターやその家族の方々からの寄贈により、3万5000冊を超える脚本・台本が収集されている。

「紙は放置しておけば酸化してぼろぼろになってしまうので、その保管も大切です。保存に適した中性紙は高価なのですが、JKAさんからの補助もあり、袋や箱を購入できるようになりました。現在は、傷みが激しい昭和39年のものまでを中性紙に入れ、そのほかのものはOPP袋に入れて保存しています」

さらに、集められた脚本・台本は題名などの書誌情報をデータ入力し、番号をつけて管理されている。

ところで、同委員会では、海外への視察も行っているそう。

「例えば、BBC（イギリス国営放送）では、放送開始からの脚本・台本がほぼすべて保管されていましたし、フランスのINA（国立視聴覚研究所）でも、1992年の納品義務法に基づき、国内のテレビ・ラジオ局で放映された番組が収集され、そのデータがオンラインで世界に配信されてもいます。韓国ではわれわれ脚本アーカイブズの動きが端緒になって、08年はじめにデジタルに特化した脚本アーカイブズが設立されました。先進国で組織的に脚本・台本を収集保存していないのは日本だけです」ということだが、同委員会では50年先、100年先を見すえ、デジタル化への取り組みもスタートした。

「昨年より、東京大学大学院情報学環との共同研究というかたちで、デジタル・アーカイブズのシステム構築の研究を進めています。デジタル化が実現すれば、複数の図書館や教育機関などで収蔵する脚本・台本のデータをリンクして情報を共有することもでき、資料として活用する道も開けてくると思います」

また、今年9月には東京・新宿で「日本脚本アーカイブズ　脚本展　脚本・台本の半世紀」も開催。戦前のラジオ台本などの貴重な脚本・台本を展示したほか、向田邦子のラジオ脚本のリーディングやシンポジウムなどのイベントも行った。

「会場に来られた方はみなさん、『懐かしい』と思われたようでした。実は、脚本展はJKAさんの支援があったからこそ実現できたこと。おかげさまで、多くの新聞などに取り上げていただけ、この活動を広く知っていただくことができました」

来年4月には、東京・両国にある江戸東京博物館で、さらに大規模な脚本展が行われるそう。

アーカイブズの確立には長い年月がかかる。日本脚本アーカイブズの歩みはまだ始まったばかり。これから先の活動に期待していきたい。

（文・長谷川英子）

今年東京・新宿で開催された「日本脚本アーカイブズ 脚本展 脚本・台本の半世紀」の会場の様子。ケースの中には、『太陽にほえろ』『私は貝になりたい』など、今なお語り継がれる有名な作品がずらり

競輪マークみつけた

〈（財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター〉

（財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、薬物乱用の防止を推進する啓発活動を行っている。薬物乱用が身体・精神に与える影響について正しい知識の普及啓発を図ることが薬物乱用の未然防止に効果的と言われており、啓発資材の開発・普及や、薬物乱用に関する最新の科学的知見や啓発活動の状況等を掲載した広報誌を発行し、薬物乱用の未然防止に努めている。写真はJKAの競輪公益資金により作成した、広報誌と絆創膏。広報誌は、各都道府県や薬物乱用防止指導員等に、また、絆創膏は「ダメ。ゼッタイ。普及運動」キャンペーン等で全国の街頭やショッピングセンターで配布されている。

「想いが、つながる　笑顔が、生まれる」競輪・オートレースの補助事業「RING!RING!プロジェクト」http://ringring-keirin.jp/